

■活動レポート

■学芸員室より 日本刀の成立過程を考える

赤沼 英男（文化財科学部門）

日本刀は平安時代後期に成立したといわれています。時代や地域の生活状況、使用目的に応じ、幾度にもわたり形態上の変化を重ね、今日に受け継がれています。わが国の鉄文化を代表する資料ですが、その成立過程は未だ未解明のままです。

「彎刀」、「鑄造」、および「鍔金と鐺が莖に摺りあう状態で装着され、柄木に収まる刀装構造」の3つすべてが備わって、はじめて日本刀が成立します。東北地方北部および北海道の7世紀後半から9世紀代に比定される遺跡からは、柄と刀身が共金の蕨手刀（図1a）が出土します。検出される蕨手刀のほとんどは刃反りまたは柄反りを有し、蕨手刀の形態変化の中に、彎刀化への変遷過程をみてとれます。

岩手県花巻市熊堂古墳群、青森県八戸市丹後平古墳群からは方頭大刀（図1b）が検出されています。X線CT・CR画像によって、これらの刀剣は柄木に鍔金、縁金物、鐺等が固定された刀装構造をとっていることが明らかにされています。同様の調査によって、10世紀中葉に比定される北海道平取町カンカン2遺跡からは、鍔金と鐺が莖に摺りあう状態で装着された直刀（図1c）が出土しました。8世紀～10世紀中葉に比定される東北地方北部および北海道の遺跡から出土した刀剣の中に、日本刀の成立に不可欠な2つの要素を見出すことができたわけです。また、「鑄造」については、9世紀代に比定される直刀にその確立が認められています。

日本刀成立過程解明には、「彎刀」をはじめとする上記3つの要素がどこで融合したか、その点を明らかにする必要があります。この課題の解明には、鉄に関する物質文化交流、その過程で生じる技術融合、そのような

視点からの刀剣研究が不可欠です。さらに武具に加え権力の象徴としての使用、宗教的儀式における使用をも考慮することによって、未だベールに包まれている日本刀の成立、さらには現代の人間国宝によっても復元が困難とされる、平安時代末期から鎌倉時代中期の日本刀が有する、「柔らかく冴えた地金」の実態に迫ることができるにちがいありません。

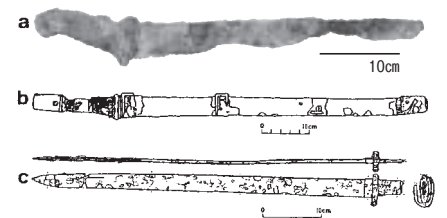


図1 東北地方北部および北海道出土刀剣
a：岩手県大船渡市長谷堂遺跡出土蕨手刀
b：岩手県花巻市熊堂古墳群出土方頭大刀
c：北海道平取町カンカン2遺跡出土直刀

■解説員室より ようこそ、体験学習室へ

高橋友佳子（解説員）

しんと静まった博物館内で、一際賑やかな部屋があります。2階の奥にある体験学習室、ここは誰でも自由にものに触れ、楽しむことができるスペースです。特に、小・中学生のグループや家族連れのお客様に多くご利用いただいています。

体験学習室は、大きく「身につける」、「ためす」、「遊ぶ」の三つのコーナーに分かれています。「身につける」コーナーでは、甲冑、雲石あねこの仕事着、明治時代のドレスなど、昔の人々の衣服を身につけ、着心地や機能を体感できます。「ためす」コーナーでは、高機や石臼を使って昔の仕事が体験できます。「遊ぶ」コーナーでは、コマ、羽子板、だるま落とし、お手玉など、今は見ることも珍しくなった昔のおもちゃで遊ぶことができます。お客様はそれぞれ興味のあるものを手に、思い思いの時間を過ごして

いかれます。

男の子には甲冑の試着が人気です。ひとたび鎧・兜を身につければ、気分は戦国武将。おもちゃの刀を手に、お友達とチャンバラごっこをして遊んでいる姿をよく見かけます。一方、女の子に人気のあるのが機織り。使う道具は変わっても、女の子が手芸に夢中になるのは、今も昔も変わらないのです。

この部屋では、子供だけでなく大人の方々も、のびのびと楽しんでいかれます。お子さんにコマまわしの手ほどきをされるお父さん。懐かしそうにお手玉で遊ばれるおばあちゃん。福笑いであそび、文字通り「笑い」転がっている親子。体験学習室には、いつも和やかな雰囲気が漂っています。

お客様にとって、体験学習室で過ごす時間が楽しいものであると同時に、先人の暮らしの知恵や苦労などを体験することで、大切な何かを感じると、豊かな時間となることを、私達は願っています。例えば、甲冑を着てみると、そのずっしりとした重さや殊のほか手の込んだ造りに驚かされるはず。戦いの際、

身体を守るために武士が身に付けた一領の甲冑に、どれだけの職人が関わり、どれほどの技術と時間が注がれたか…。そんなことに思いをすれば、資料をより深く味わっていただけるのではないのでしょうか。また、昔からの遊びの多くは、男の子は年上から年下の子へ、女の子の遊びは母親から娘へと伝えられ、受け継がれてきました。メンコやあやとりなど、大人の方にとっては懐かしく、逆に現代の子供には新鮮に感じることでしょう。子供は、遊びの中から生活の知恵を会得するもの。親が先生となって、過去に体験したことがらを子供に教え伝えていく、そんな場としてもご利用いただければ幸いです。

